

言ではないでしょう。その阿修羅の如き活躍は、敵方からは憧憬と畏怖。味方からは嫉妬と羨望の対象となります。

愛馬に乗って合戦に参加する場合、その戦力を機面ヨロイとして扱うことができます。また、《盟友》の武器修正が+10になります。

特級：悪鬼の使い

《悪鬼の使い》の使い手の愛馬は、他の乗り手を踏み殺すほどの暴れ馬です。その周りには常に血風が吹きさび、味方ですら恐怖するでしょう。

愛馬に乗っている場合、〔天下〕×10mの高さまで跳躍することができます。また、《盟友》の武器修正が+20になります。

■成山槍術

使用技能：〈白兵戦闘〉

武家では刀を武の象徴として重用してきましたが、その一方で下級の兵士達には比較的簡単に使える槍が好まれました。彼らには技術を高めようといった意識はありませんでしたが、生き残った古参兵が新兵にコツを伝えるうちに幾つかの技を生み出しました。それを成山普遠寺の5代前の住職であった兼倉如水が各地より集め、体系化したものが成山槍術として伝えられています。元々修行僧の鍛錬のための物でしたが、一般の人でも請えば(ある程度のお布施も必要ですが)教えてもらえます。

成山槍術は槍を用いた兵法です。槍、長巻、長刀、金剛杖など、十分な長さを持ち、突くことが可能な武器でなければ使用することができません。

初級：長間

間合いの長さを最大に生かして相手を近づけないようにします。

《長間》は防御時にのみ行なえ、判定のサイコロを+2することができます。ただし、防御側が勝っても〔突き返し〕は発生しません。

中級：掌

僅かな隙をついて攻撃をねじ込みます。刀であれば相手に届ずとも、槍ならばそれも可能なのです。

《掌》を使うものは、命中判定で成

功数が相手と同じになった時に、武器修正と同じだけのダメージを相手に与えることができます。

上級：賊

槍の破壊力をさらに高め、確実に致命傷を負わせることができます。

《賊》によってダメージを受けたものは、必ず〔致命ゲージ〕からダメージを割り振っていかねばなりません。〔致命ゲージ〕がすべて埋まったあとは、好きなように割り振ることができます。

特級：烈破

気を槍先に集め、それを突き出すことで衝撃波を飛ばします。この技は普遠寺において編み出された奥義で、桁外れの集中力を要するためそうそう見られるものではありません。

《烈破》で放たれる衝撃破は射撃武器として扱われますが、命中判定は〔敏捷〕〈白兵戦闘〉で行ないます。武器修正は使用した武器のものに〔敏捷〕を足した値で、〔敏捷〕×2mの射程を持ちます。衝撃波は実体を持たないため、防御側は〈回避〉でしか防御することができません。

■空拳

使用技能：〈格闘戦闘〉

正確には、空拳を拳法と呼ぶことはできないでしょう。その技は体術主体のもので、対峙し刃を向けた敵の勢い、武器を利用して、無手にて反撃を行なう戦闘術です。

拳を潰されて荒野に捨てられたある法師が、苦難の旅の中で編み出したものだといわれています。

初級：合わせ

《合わせ》とは空拳を学ぶものが、まず最初に知らねばならない戦い方です。敵の視線、脚裁き、果ては筋肉のわずかな動きなどを見ることで、次にどのような攻撃を仕掛けようとしているのかを知るための術です。

《合わせ》を体得したものは、〔共感〕で命中判定が行なえるようになります。

中級：返し撃ち

《返し撃ち》は無手にて武器を持った戦うための術です。攻撃を仕掛けて来た相手の武器を利用して、敵に

致命的な攻撃を仕掛けます。

《返し撃ち》を使って攻撃を命中させた場合、自分の武器修正ではなく、相手が使っていた武器の武器修正を使ってダメージを算出することができます。

上級：殺勢

どんなものであれ、攻撃するためには力の流れが発生するものです。《殺勢》は敵が自分に向けた力を利用して、敵に打撃を与える技です。

《殺勢》は防御時にしか使用できませんが、命中判定に勝った方は(命中判定に負けた方の〔成功数〕+武器修正+その他)でダメージを算出することができます。《殺勢》の使用者が負けた場合でも、同様にダメージを算出します。

特級：空

空拳の極意を身につけたものは、生死の境にあっても、まったくの自然体で存在することができるといわれています。空拳を知らぬものの目には、その様は無防備な姿に映るでしょう。

行動宣言時に《空》を使って指定されたキャラクターひとり、そのラウンドのアクションで《空》の使い手を攻撃しなくてはなりません。

なお、《空》の使用者は、そのラウンドの本来のアクションを失います。

■犬飼

使用技能：〈格闘戦闘〉

忍犬を育て、使役することを得意とする蔭流忍術から生まれた兵法で、犬や猫といった獣と心を通わし、意のままに使う技です。

犬飼の技を受けた鳥獣は、術者の熟練に比例して強力な牙と爪を振るい、やがて獣ではとても理解できないような複雑な命令を、主人から遠く離れた場所ですることができるようにまでとなります。この技を極め真に獣と心を通じあわせたある達人の飼い狼の一群100匹は、その主人亡き後も100年間その命が尽きるまで主人の一族を守り続けたといえます。

初級：眼

眼の技は、獣と心を通わせ、自らの意志を伝え、獣の意志を読みとる技